

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」進捗評価結果表

研究テーマ(領域)	現代型家族問題に対する法と臨床心理学の融合的視点からの解決モデルの提案	
研究総括	二宮 周平	
所属機関・部局・職	立命館大学・法学部・教授	
評価区分		
	A	研究期間の延長により、優れた進展が期待できる。
	B	一層の努力を要するが、研究期間の延長により、今後の進展が期待できる。
	C	研究期間を延長しても、十分な進展は期待できない。
評価にあたっての意見		
<p>海外調査などにより一定の成果はみられるが、研究目的の達成には一層の努力が必要である。法学と臨床心理学との融合が十分とは言えず、研究成果についてはより積極的な発表が望まれる。今後の研究計画は国際シンポジウムの開催が中心となっているが、可能な限り早い時期に開催し、そこで得られた知見を踏まえて、成果を取りまとめていただきたい。その際、法学グループと臨床心理学グループとで十分な議論を行い、融合研究としての成果を挙げることを念頭に置いていただきたい。</p> <p>また、今後の所要経費について国際シンポジウムの開催経費を計上しているが、大半は今年度の繰越金でまかなうことが可能と思われるので、再度、検討いただきたい。</p>		